

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：南戸塚保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：岡 正子	定員（利用人数）：90名（89名）
所在地：横浜市戸塚区戸塚町2833-3	
TEL：045-881-8733	ホームページ： http://www.momo.ed.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2008年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 ももの会	
職員数	常勤職員：17名 非常勤職員 20名
専門職員	（専門職の名称）園長 1名 保育士 24名
	栄養士 1名 調理員 3名
	事務員他 8名
施設・設備の概要	（居室数） 9室 （設備等）
	保育室・事務室・厨房・ 育児支援室・一時保育室・相談室・ 更衣室など

③理念・基本方針

保育理念

- （1）子どもの育とうとする力を信じ、環境を通じて保育を行います。
- （2）「あそぶ」ことを保育の中心に置きます。
- （3）意志をもった一個の人格として子どもを尊重します。

保育目標

こころもからだもけんこうな子

④施設・事業所の特徴的な取組

- （1）広い園庭で、毎日のびのびと身体を動かして遊びます。また、砂や土、水、草花、木々の落ち葉など自然に関わりながら遊び、四季を感じながら戸外遊びが楽しめるようにしています。
- （2）子どもの働きかけに対して豊かに応答できる環境を常に心掛け、発達に即した援助を行う中で、その子の持つ可能性を大切に育てています。
- （3）年齢に合った玩具や教材などを揃え、子どもたちが自分の好きな遊びを十分に楽しめるような環境を整えていきます。
- （4）食を通じて生きていく力を身に着け、健康の事を考えられる人に育つように、食べ物を選ぶ力、食事を作る力を、栽培・調理・当番などの食育活動を通して育てていきます。
- （5）保育園内での異年齢児との関りはもちろんのこと、地域の方や近隣の姉妹園の友だちなど、身近な人との交流を大切に、『自分の存在』と『自分とは違う存在』を知り、社会性を養います。
- （6）子どもが生活する全ての場面で、子どもの人権を大切にする保育を行います。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年4月1日（契約日） ～ 2023年11月21日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆子どもたちは主体的に好きな遊びを楽しみ、のびのびと園生活を送っています

園は果実のなる木や畑のある広い園庭があり、子どもたちは自然を肌で感じながら、過ごしています。園庭や保育室の他にホールやテラスがあり、天候に関わらず、身体を十分動かし発散できるスペースを確保しています。子どもたちの年齢や発達段階に応じて、興味や好奇心を満足させ、遊びの幅を広げる様々な玩具や教材、環境を用意しています。子どもたちの要望でガムテープを取り入れた結果、新聞紙を使った恐竜の骨格作りに発展するなど、創作活動も主体性を重んじています。

保育士は子どもたちが主体的に進めている時には危険がないように見守り、子どもたちの発想や活動を尊重し、協同活動につなげています。地域の親子や保護者も参加した七夕の会では5歳児が射的やヨーヨーなどのお店を工夫して作り、盛り上げました。子どもたちが取り組んだ梅ジュース作りや泥団子作りなどはドキュメンテーションにして掲示し、園全体で共有することで更なる活動意欲につながっています。また、園では環境教育にも力を入れています。毎月「イーオの日」を設け、ゴミの分別や水を大切にしよう、などテーマを決めて「もったいないを忘れない毎日」を意識するように働きかけています。子どもたちは自分の遊びたいことを自由に選んで遊び、遊びの中で学び、お腹がすけば食堂に向かい、のびのびと園生活を楽しんでいます。

◆職員は保育理念に基づき共通意識を持って、子ども一人ひとりを尊重した保育を行っています

保育士は、子どもの様子を丁寧に見守り、子どもの発達状況や生活リズム、家庭環境を考慮した上で、朝のおやつや昼食の時間、基本的な生活習慣の取得、遊びなどそれぞれの子どものに合わせた一人ひとりを尊重する保育を行っています。クラス内での日々の話し合いにより、子どもの姿から都度、柔軟に指導計画を見直しています。個々の子どもの状況は毎日のミーティングやカリキュラム会議等で全職員が共有し、皆が同じ対応ができるようにしています。各種マニュアルは、参考資料を添付して理解しやすいよう配慮し、背表紙に内容を記載するなど、職員が自発的にマニュアルを活用するための工夫がされています。また、自らが学ぶ機会として、内部外部問わず研修に多く参加できるよう職場環境を調整し、職員のモチベーションとスキルアップにつなげています。園長のリーダーシップのもと「職員みんなで保育する」という事を意識し相互に連携を取って、働き方の改善にも取り組んでいます。

このような取組を通じて、職員一人ひとりが共通認識の下で、子どもの個性や人格を尊重する保育実践に努めています。

◆次代を担う人材の育成と、さらなる資質向上のための人材育成計画の整備・充実化が期待されます

園では、「地域の中で存在感のある保育園」をテーマに、地域の子育て支援の拠点となるべく、様々な取組を行うとともに、その基盤となる職員の育成にも力を入れています。若い世代の保育士も多く、職員教育・研修の充実化を図るほか、業務効率化や時間外労働の最少化など、労働環境の改善にも力を入れ、職員の定着率向上にも努力しています。また、感染症による休業補償制度の整備に向け、園から法人に改善提案を発信するなど、福利厚生拡充の取り組みも行っています。

一方、園では次代を担うリーダー職員など、中堅層の育成が課題となっています。今後は、園独自の更なる育成の取組とともに、明確な人事評価の仕組みの構築や階層別・職種別研修の再開など、効果的な人材育成と資質向上を図る体制の整備・充実化の取組に期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

コロナ禍が3年以上続いたことにより6年ぶりの受審となりました。初めて受審を経験する職員も多い中、受審経験のある職員が中心となり、園の自己評価をすすめていきました。南戸塚保育園のサービスの状況はどのレベルにあるのか、ひとり一人が自己評価表を基に確認し、グループごとに検証、その後全体で検証し改善点を話し合いました。勤務がシフト制であり、全体をまとめていくことは大変でしたが、全員参加が、より素敵な保育園作りに一番必要なことと考え工夫しました。チーム力も向上したと思います。

南戸塚保育園は2008年度に民間移管で当法人が運営しています。当法人になってからも引継いだ地域交流を大切にし、その良好な関係の中で子どもがのびのびと育つ環境を作ってきました。しかしコロナ禍となり感染拡大防止策を第一優先とし、相手がある取組みを制限していかざるを得ませんでした。現在は地域交流や区役所や子育て拠点と協働した取組みを実施しています。子どもの笑顔の発信により、地域全体が明るくなり子どもたちが大切にしてもらえる環境づくりができることを願っています。

利用者アンケート等ご協力いただき保護者の皆様に感謝し、ご意見やご期待に応えていくことをお約束し、今後も広く自然に恵まれた素晴らしい保育環境を生かし、南戸塚保育園がすべての利用者の皆様に満足していただけるように努力していきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり